

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和元年度 技術情報第1号（普通期水稻のトビイロウンカ）について（送付）

本年のトビイロウンカの主飛来は7月1～4日と13～15日で、飛来量はやや多い状況です。8月2～8日に行った巡回調査の結果は以下のとおりで、今後の発生動向に注意し、本情報を基に適切な防除を行ってください。

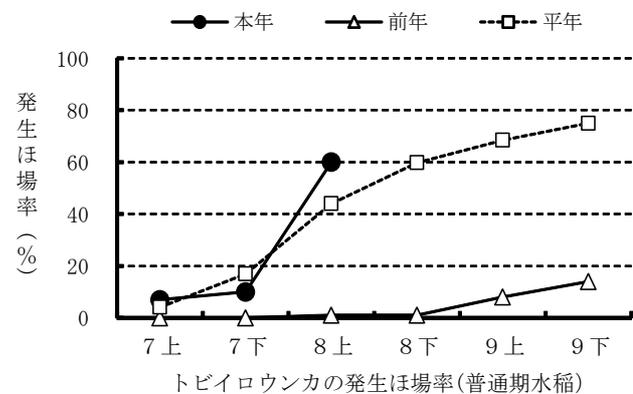
令和元年度 技術情報第1号

1 発生状況等

(1) 8月2～8日に行った巡回調査（調査ほ場数62ほ場）では、発生ほ場率が60%（平年44%）と8月の予報どおり発生量はやや多となったが、発生程度はすべて少発生であった。

(2) ただし、トビイロウンカの発生ほ場の39%で増殖率が高い短翅型雌成虫が認められ、要防除水準（短翅型雌成虫0.2頭/株）を上回ったほ場も4ほ場（12%）確認された。

また、鹿児島地方气象台が8月8日に発表した九州南部の向こう1か月の気温は高くなることが予想されており、本種の増殖に好適な条件となることから、今後、飛来第2世代の増殖により、坪枯れ被害の発生が懸念される。



2 防除の考え方

(1) 7月1～4日に飛来した第2世代幼虫の防除適期は8月21～26日頃、7月13～15日に飛来した第2世代幼虫の防除適期は8月31日～9月5日頃と予想される（次ページの参考資料の発生経過予測図を参照）。

(2) 既にトビイロウンカが発生しているほ場では、それぞれの防除適期（2回）の防除が必要と考えられる。

(3) 飼料用稲や育苗箱施用剤を使用していないか、使用していてもウンカ類に効果が高い新剤のトリフルメゾピリム剤を使っていない場合、今後トビイロウンカの密度が高まる可能性が高いので、特に注意する。

3 防除上注意すべき事項

(1) トビイロウンカは秋ウンカとも呼ばれ、増殖率が非常に高く、8月下旬以降には高密度となり坪枯れ被害を生じる恐れがある。残暑型の年には、稲作後期まで増殖率が高く、被害が多発する傾向があるので注意する。

(2) 本種は稲の株元に生息するので、粉剤や液剤で防除する場合は、薬剤が株元に十分届くように散布する。

(3) ほ場では各虫態が混在しているので、防除を実施した後も、その後の発生に十分注意する。また、ほ場内の分布にはムラがあるので、ほ場全体の発生状況を確認する。

(4) 薬剤散布にあたっては、農薬の使用基準を遵守し、薬剤の飛散に十分注意する。

(参考資料)

トビイロウンカの有効積算温度による発生経過予測図 (鹿児島地方気象台：加世田のデータを使用)

鹿児島県病害虫防除所 2019年8月8日 作成

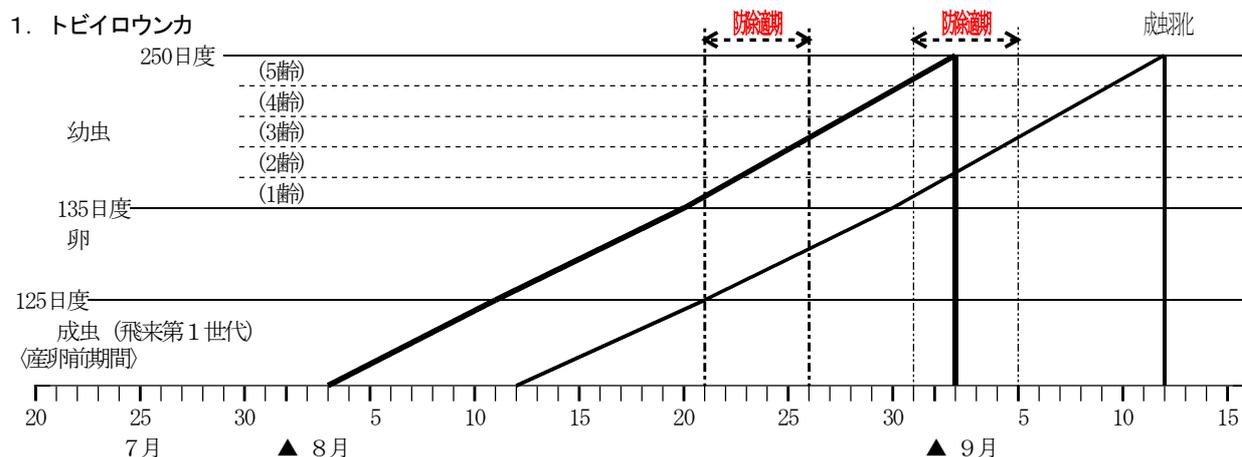


表1 巡回調査におけるトビイロウンカの発生状況 (調査日：8月2～8日)

地域名	調査ほ場数	発生ほ場率 (%)	
		本年	平年
南 薩	10	30	36
北薩平坦	24	58	43
北薩山間	22	45	45
大 隅	6	100	48
県計(平均)	62	60	44

※ 平年は2009年～2018年の平均値。

※ 巡回調査地点

南 薩： 南九州市知覧町永里・川辺町古殿・川辺町勝目

日置市伊集院町大田，いちき串木野市大里

北薩平坦： 鹿児島市東佐多町，始良市三拾町・蒲生町楠田

霧島市隼人町住吉・国分上小川，薩摩川内市宮崎町・高江町

出水市野田町屋地・高尾野町東干拓，出水市六月田

薩摩川内市入来町浦之名，阿久根市鶴川内

北薩山間： さつま町宮之城平川・宮之城時吉・鶴田大角・中津川，薩摩川内市祁答院町上手

伊佐市菱刈前目・田中，伊佐市大口金波田・木崎・山野，湧水町北方

大 隅： 曾於市末吉町高松・大隅町笠木，鹿屋市野里